資料３

第１回都計審都市マス検討部会（7/20）における主な論点・意見

1. 主な論点

① 現行都市マスの成果検証において、追加すべき視点及び指標・データ等について【成果検証の視点】

② 今後の千代田区のまちづくりにおいて留意すべきテーマについて【まちづくりのテーマ】

③ 改定において優先的に検討すべき事項について【優先的事項】

2. 主な意見

① 主な論点①【成果検証の視点】に関するもの

(ア) 分析・成果検証の手法

- 一つの事象に対する多面的な評価（経済性と社会性や広さと連なり等）や、失敗事例や未達成の事例の提示も必要（伊藤委員）

(イ) 指標・データについて

- 老朽ビルの集積状況等建築物単位のデータ（村木委員）
- 帰宅困難者対策に関連した昼間人口等の分布（村木委員）
- 数値目標の設定により指標の変化を評価（村木委員）
- 緑の質的評価（視認性等）の必要性(池辺部会長)
- 世論調査等のデータの分析（小澤副部会長・池邉部会長）
- 建物数からの面的エネルギーの普及の分析（村上委員）
- 行政データの統合・可視化、活用による地域への説明・議論、合意形成（小澤委員）

(ウ) 成果検証すべきテーマ

- 自転車利用環境（伊藤委員）
- 歩行環境や回遊性、歩行空間の連たん等歩行者主体のまちづくり（福井委員）

② 主な論点②【まちづくりのテーマ】に関するもの

(ア) 地域らしさの承継

- まちの歴史や文化、人の思いや営み等「地域らしさ」の承継（中村（政）委員）

(イ) 緑と水辺

- 水辺の環境や風の道等への都市づくりからのアプローチの必要性（福井委員）
- 中長期的視点から街路樹や公園等の適切な更新や維持管理（池邉部会長・福井委員）

(ウ) 公共空間・公的空間・官民連携

- 区民や昼間人口等のニーズに応じた、居心地のよい空間（三友委員）
- 教育施設との連携・オープン化、学生の参画等（福井委員、池邊部会長）

(エ) 住環境・移動環境

- 高齢者層の住まいのあり方、移動環境としてのトイレ整備・情報提供（橋本委員）

(オ) 防災

- タワーマンションの防災対策、災害時のインバウンドへの情報発信（村上委員）

(カ) 参画の視点

- ➢ 当事者の意見を反映する機会（移動・バリアフリー等）（橋本委員）
- ➢ 街路樹等の緑の適切な維持管理に関する区民との合意形成（福井委員）

(キ) 新たなまちづくりの視点

- ➢ SDGs（持続可能な開発目標）を意識すべき（小澤委員）
- ➢ 自動運転技術が与える地域へ影響（小澤副部会長）

(ク) 容積ボーナスをインセンティブとした機能更新のあり方（福井委員）

③ 主な論点③【優先的事項】に関する意見

○ 千代田区らしい新たな都市像の先導に向けた指標や分野横断的な指標の必要性。地域特性を踏まえた戦略の必要性（中村（英）委員）

○ 2020 東京大会に向けて、市民緑地認定制度の活用等による高質で快適な公開空地の整備等（池邊委員）

【参考】

平成 30 年度第１回都市計画審議会（7/10）における主な論点・意見

1. 主な論点

① 現行都市マスの成果検証において、追加すべき分析の視点及び指標・データ等について【成果検証の視点】

② 改定スケジュールについて【改定プロセス】

2. 主な意見

① 主な論点①【成果検証の視点】に関するもの

(ア) 指標・データに当ついて

- ➢ 千代田区の特徴や都市づくり課題を浮かび上がらせるデータが必要。昼間人口／地区別容積充足率・指定容積率／超高層ビルの分布と集中／鉄道・上下水道等のインフラの状況／避難所／幼稚園の状況／交通／マンションの実態／耐震化・中小ビルの老朽化
- ➢ 地区計画等現行プランに基づいて進められてて来たまちづくりの実態の検証
- ➢ 中小ビルの利用状況に把握とオーナーの声を聴く必要
- ➢ ソフト面も含めた新たな視点による分析の必要性や指向性のあるデータの必要性
- ➢ スポーツ、環境／昔から住んでいる住民と新しく転入してきた住民とのコミュニティ／シェアリングエコノミーなどの新しい都市のあり方／既存の区分に入らない将来産業／新しい働き方／古いストックのリノベーション

○ 人口回復に代わる都市づくりの主軸となるコンセプト（例：災害に強い都市等）

② 主な論点②【改定プロセス】に関するもの

○ 区民の関与の機会の充実

○ 昼間区民や地権者、事業者等の参画が必要